

主要科目の特長（経済学部経済学科）

経済学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

（1）NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来になりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実が、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、全学生に配付したノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

(2) 専門科目

《専門科目》は《学科基幹科目》、《学科展開科目》および《学科関連科目》という3つの科目区分によって構成されます。また、オープン科目として他学部《専門科目》の一部履修を認め、経済学だけに留まらない幅広い専門知識の修得をめざすことができます。カリキュラムの概要を理解することは、学修する上で大切な第一歩です。カリキュラムをよく理解して有意義な学びをスタートさせてください。

- a) 《学科基幹科目》には、経済学を学ぶにあたっての基礎的科目と研究活動をおこなうための基本的手法を身につける科目群が用意されています。経済理論の基礎を修得させる「ミクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」（いずれも必修科目）を配置し、教室での講義だけではなく、CCS内の自学自習システムや解説動画の事前視聴を予習に活用した反転授業をおこないます。動画コンテンツは復習にも活用されます。

また、2～4年次には20名前後のクラスによるゼミナール（すべて必修科目）を配置し、小規模クラスでのきめ細やかな学修指導をおこないます（詳細は、P55「演習科目」を参照）。さらに、ゼミ担当教員がクラスアドバイザーを兼務し、学生生活全般にわたる指導・助言をおこないます。

- b) 《学科展開科目》には、経済学のより専門性の高い科目のみならず、政治学や法律学を含んだ多様な科目を配置しています。個々の学生は、4つの教育トラックを参考にして＜経済理論と情報＞、＜応用経済と経済政策＞、＜各国経済と歴史＞、＜法制度と公共政策＞の4つの領域から自由に選択できます。教育トラックは、学修とキャリア（出口）との関連を意識させることを意図して設定されています（詳細は、P58「教育トラック」を参照）。また、体系的・系統的な学修を促すため、科目のきめ細やかな学年配当をおこない、教育トラックに沿った科目履修をサポートしています。
- c) 《学科関連科目》には、キャリアと留学に関する科目を配置しています。キャリアについては、「企業研究1・2」のように現場見学をとおして理論と実際との関連づけをおこなう科目や、企業から経済のリアルな姿を学ぶ「企業連携講座」や、課題を見つけ出し改善案を提案していく「企業連携演習」（BIP科目）、キャリア形成に向けた3年次の実践的な「経済キャリア講座」が配置されています。留学については、数多くの提携大学での留学を前提とした国際理解科目群を配置しています。

(3) 演習科目

経済学科では、1年次の「基礎セミナー」、2年次の「専門基礎演習」、3年次の「専門演習」、4年次の「卒業研究」をまとめて演習科目と呼びます。これら科目は、少人数のゼミナール形式の科目であり、みなさんに対して4年間のゼミナール教育をおこなうことになります。指導教員の名前をとって、自分は「〇〇ゼミ」に所属している、と一般的にいいます。

みなさんは学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題解決しながら、自分の能力の向上に努めてください。また、4年間

のゼミナール教育で、人格的な交流をとおして、多くの友人関係が育成されるとともに、指導教員との間のコミュニケーションも密接なものとなります。ゼミナールは4年間の学生生活の中核で、大きな思い出となるものです。

基礎セミナー

1 年次配当の「基礎セミナー」は、導入・基礎教育となる必修科目です。授業は少人数でおこなわれ、大学で学ぶ基本的な能力を修得するとともに、2 年生以上の演習科目の準備段階となります。「基礎セミナー」では、

- 大学での学修が、高等学校までとどのように違うのか、体験をとおし、実感として理解する。
- 大学生活における自己管理方法および、アカデミックスキルを身につける。
- 本学の歴史および建学の精神を理解し、大学への帰属意識をもつ。

という共通の目標を掲げています。具体的には、以下のような指導がおこなわれます。

- a. 大学での学び方
- b. 文献資料の調査・検索のしかた
- c. レジューメ・レポートの作成のしかた
- d. 報告・発表やディスカッションの工夫

専門基礎演習

2 年次配当の「専門基礎演習」は、1 年次に身につけた次のような技法を、学問に有機的に結びつけることを目的としています。

- 「日本語表現」で培った日本語能力
- 「デジタル・プレゼンテーション」で修得したプレゼンテーション技術
- 「基礎セミナー」で体験したゼミナールでのディベート手法

特に、3 年次以降の研究テーマに沿った学修ならびに「専門演習」の準備として、以下のよう5つの力を身につけることをめざします。

- a) 課題を発見する力
- b) 自分を表現する力
- c) とともに議論する力
- d) 問題を解決する力
- e) 実践や行動する力

また、効果的な教育のため、少人数で実践的なトレーニングをおこないます。さまざまな問題について議論し、話し合いながら、社会への関心を深めテーマを見い出す場となります。講義で学んだ専門的な知識も活かしながら、少しずつ主体的な課題認識能力や問題解決能力の向上をはかることができれば、次年度の「専門演習」に取り組む準備ができたといえるでしょう。

専門演習

3 年次の「専門演習」では、2 年次の「専門基礎演習」での学修をさらに進めて、みなさんが自ら関心をもつ分野について専門的な研究を深めます。指導教員の指導のもとで専門的な

文献研究をおこなうだけでなく、キャンパスを出てフィールドワークをおこなうゼミもあります。

また社会人の基本的な姿勢なども3年次のゼミを通じて学びます。コミュニケーション力、文章作成能力、問題解決力などを実践的に身につけます。ゼミ合宿や社会見学・ゼミ旅行などを通じて、ゼミの先輩や後輩といった関係から授業だけでは学べない体験をするゼミもあります。さらに3年終了時には、研究報告書の提出が求められます。

卒業研究

4年次の「卒業研究」は、原則として3年次の「専門演習」と同一の指導教員のもと、3年次までの学修に基づいて研究をさらに進め、自らの関心に沿って研究成果を卒業論文という形でまとめます。4年間の学修の集大成として提出された卒業論文は指導教員から評価されて終わりではありません。卒業論文提出後の卒業研究発表会において、論文の内容をもとにしたポスターセッションと、口頭によるプレゼンテーションをそれぞれ行い、これらはいずれも経済学部全教員によって審査されます。

◎専門科目の一部をピックアップ

check! ミクロ経済学1	check! マクロ経済学2
	
何を学ぶのか 市場の効率性や公平性について考える。 この講義では、消費者や企業の意思決定が市場や社会に与える影響を分析し、資源配分の効率性や公平性、市場メカニズムの利点と限界について理解を深めます。	何を学ぶのか 景気循環と経済成長に関する理論を学ぶ。 マクロ経済学は、GDP(国内総生産)や物価など国全体に関わる大きな単位の経済を対象とする学問です。マクロ経済学2では、資本量が増える中長期的の経済に焦点を当て、景気循環と経済成長に関する理論を学びます。
将来にどう生きるのか 経済と市場の動きがわかるようになる。 経済活動における意思決定過程を理解し、効率的な資源配分や市場機能のメカニズムを理論的に解明できるようになります。そして、政策や外的環境が市場や社会にどう影響するかを予想できるようになります。	将来にどう生きるのか 日本経済の将来に向き合う知識を養える。 日本経済は「失われた30年」とも言われる長期の停滞に陥っており、私たち一人ひとりが、この問題にどう対応すべきか問われています。景気循環論や経済成長論を学ぶことで、そのための手がかりを得ることができます。